報告

北朝鮮の為替はひどい二重レート

理事　田畑光永

光復地区商業中心

私は本誌の昨年11月号に「北朝鮮再訪記」を載せた。

そこで私は疑問として、あの国では外国からの旅行者に通貨の両替をさせないことを挙げた。普通、外貨が乏しい国は外国人が持ち込む外貨を自国通貨に両替させるものだが、北朝鮮は自国通貨を外国人に持たせないのである。そこで外国人は買物やレストラン、タクシーなどの支払いには外貨を使う。

だから、ホテルのフロントには為替レートというか、交換レートが表示されている。

しかし、それはどう見ても、北朝鮮ウォンが過大に評価されていた。去年の場合だと、1元が15ウォン、1ドルが96ウォン、1円が1・2ウォン、1ユーロが136ウォンだった。

外国人は両替なしでも不自由はないが、北朝鮮としてはどうなるか。外国通貨が直接、巷に流れ込むことになる。

国家としては外貨が無制限に闇で流通するのを放置するわけにはいかないはずだから、何らかの方法で回収しなければならない。それをどうするのかが不明であった。

さて今年も9月の上旬から中旬にかけて1週間ほど行ってきた。3回目である。物好きと言われるのだが、今年は金正恩体制が発足したのだから、なにがしか変化が見られるのでないかと期待したのである。残念ながら、これはと言うほどの変化は感じなかったが、この外貨回収の仕組はちらりと見ることができた。

ピョンヤンの中心部からやや外れたところに「光復地区商業中心」というスーパーとデパートを兼ねたような新しいショッピング・センターが今年1月にオープンした。そこを内部は撮影禁止という条件で、そして大急ぎで駆けるように一回りさせてくれたのである。

食料品から衣料品、カバン類から自転車といったものまで、多種類の商品が並んでいたが、ほとんどは中国製。驚いたのは値段が、間違いでは?と思うくらいに高いのだ。

大慌てでメモした数字を仲間で持ち寄ってみたところ、食料品ではジャムの瓶詰9000ウォン、ジュース4200ウォン、下着では男物パンツ1200ウォン、Tシャツ12100ウォン、高いものでは自転車44200000ウォン、旅行鞄648000ウォン、オーバー135000ウォン……。

普通のサラリーマンの月給は30000～1万ウォンというから、この値段は法外である。法外だが、街で外国人から手に入れた外貨をここの国内向け換算レートでウォンに替えれば、たちまち法外ではなくなるのだ。

問題はその換算レートだ。今年の3月にそれを見たという人から聞いたところでは、1元635ウォン、1ドル4000ウォン、1ユーロ5330ウォン、1円46・5ウォンであったという。つまりウォンは外国人向けの換算レートのなんと約40分の1に下げられている（外貨の価値は上がる）。

つまり外国人から外貨を入手すれば、外国人に売ったものの価値より40倍もの価値を手に入れられるのだ。

なるほど、こうすれば政府は巷の外貨を無理なく回収できる。勿論、これで闇外貨がなくなるとは思えないが、一応、外貨政策のつじつまは合った。

しかし、考えてみれば外国人は40倍も高い買い物をさせられていることになる。腹立たしくはあるが、これであの国の謎の1つは解けた。